

## 1. 調査目的等

小学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

## 2. 学校ごとの指標

- 教科総合(国・算)の学校平均偏差値50以上の継続
- 教科総合(国・算)において、アンダーアチーバー児童の割合10%以下

## 3. 指標にむけての取組

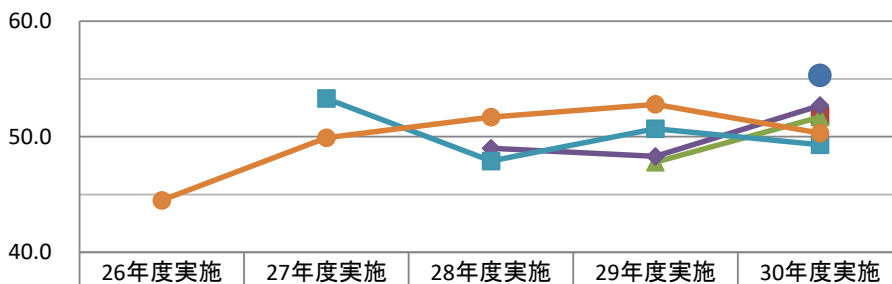
- 反復指導の計画的な実施(診断テスト対策指導等を含む)
- 「見通し」「振り返り(形成的評価)」の設定と「かく」「話し合う」活動の充実

## 4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
本校(A)	46.8	52.4	50.7	50.2	51.8
嘉麻市(B)	50.0	50.8	50.7	51.5	51.4
(A)－(B)	-3.2	1.6	0.0	-1.3	0.4
標準偏差値との差 (A)－(50)	-3.2	2.4	0.7	0.2	1.8

## 各学年の推移



	26年度実施	27年度実施	28年度実施	29年度実施	30年度実施
● 30年度1年生					55.3
■ 30年度2年生					51.8
▲ 30年度3年生				47.8	51.7
◆ 30年度4年生			49.0	48.3	52.7
■ 30年度5年生		53.3	47.9	50.7	49.3
● 30年度6年生	44.5	49.9	51.7	52.8	50.3

## 5. 各学校における分析

- 教科総合(国・算)の学校平均偏差値は、51.8であり、標準偏差値50以上を継続することができた。
- 標準偏差値50を上回る学級は、67%(12学級/18学級)であり、依然として学年・学級間差がある。
- アンダーアチーバー児童は全校で12.6%で、目標の10%以下とはならなかった。学年別では1～4年生は10%以下を達成することができたが、5・6年生では10%を超える結果となった。
- 算数科の数値の伸びについては、習熟度別少人数授業を行ったことや振り返り(形成的評価)を位置付けたことが効果的であった。低・中学年において50以上の数値が見られたこと、低学年でアンダーアチーバー児童が5%以下であったことからもうかがえる。
- 複数体制による朝の活動で家庭学習を中心とした習熟指導を行ったことは、基礎的な学習内容の定着を図る上で有効であった。
- 授業の中に「かく」「話し合う」活動を位置付けたことは、児童が自分の考えを「かく」ことへの抵抗感が低くなり、問題を最後まで解こうとする態度を身に付けさせることができたという点で有効であった。このことは、中学年においてアンダーアチーバー児童が10%以下であったことからもうかがえる。

## 6. 各学校における今後の取組

### 【継続】

- 1単位時間内における振り返りの場の設定(形成的評価の重視)  
算数科における習熟度別少人数授業の計画的な実施と複数指導体制による指導
- 家庭学習と朝の活動を関連付けた計画的な指導  
児童が書き直す時間の確保と併せた解き方の解説及び教材集等の活用による発展問題への挑戦

### 【充実】

- 「かく活動」「話し合う活動」の位置付け(算数科を中心に他教科へ)
  - ・1単位時間内における共通点、相違点などの視点を明確にした「かく活動」の位置付け
  - ・1単位時間内における考えを共有したり付加、修正したりするための「話し合う活動」の位置付け

### 【修正】

- 家庭学習の習慣化
  - ・「10分×学年+10分」の徹底を図るための質や量の系統性をもたせた稲築西小学校家庭学習系統表の見直し(通常及び週末課題の提出率90%以上)
  - ・生活アンケートの実施による家庭学習時間確保の振り返り(達成児童80%以上)

## 7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◎今後の取組を具体化し推進することができるように、特に、次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。
  - ◆嘉麻市学力向上推進委員会に基づく学力向上検証改善委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。
  - ◆嘉麻市学力向上推進プランに設定した「書く(かく)活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施する。また、学力向上推進員による若年層の教員を対象とした授業改善指導や教育論文指導を実施する。
  - ◆嘉麻市学力向上プランに設定した「家庭学習」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組の具体を提示する。